

北海道の印刷

3

第838号

2026年3月10日発行

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

北海道の難読地名

風不死

難読レベル

★★★★☆

早春の支笏湖、風不死岳（右）と樽前山（左奥）（千歳市支寒内）

CONTENTS

3・4 impression! 全印工連XIカンファレンス2026開催される

5 全国青年印刷人協議会第39回全国協議会開催される

6・7 全印工連共済制度のご案内

8 十勝支部令和8年新年交礼会開催される

8・9 旭川支部令和8年新年交礼会開催される

9 札幌支部令和8年例会開催される

10 j-CONNECTのご案内



北海道印刷工業組合

〒062-0003 札幌市豊平区美園3条5丁目1番15号 原ビル

TEL.011-595-8071 / FAX.011-595-8072

[Website] <https://www.print.or.jp> [E-mail] info@print.or.jp



P-00023

この印刷物は、CSRに取り組み印刷会社が製作した印刷物です。

印刷業界に必要とされている “新しい価値の源泉”とはなにか impression! 全印工連XI カンファレンス2026開催される

全日本印刷工業組合連合会は、「impression! 全印工連XIカンファレンス2026」を、「印刷業界に必要とされている“新しい価値の源泉”とはなにか」をテーマに、1月23日午後1時から神奈川県横浜市の象の鼻テラスで開催した。

「impression! 全印工連XIカンファレンス2026」は、変化する社会のなかで印刷業に求められる新しい価値を探るために、全印工連が自ら考え、試行してきた企画を共有し考える場として開催された。

消費行動が変化し、“体験としての価値”が重視されているいま、印刷は単なる情報伝達ではなく、人の行動や感情を動かす体験デザインの仕事として再定義されつつある現況を認識し、展示コーナーでは、印刷会社が試行錯誤を重ねながら育ててきた「XI (Experience Integrator)」のプロトタイプが紹介され、地域や自社の強みを編集し、体験として社会へ届ける印刷業の可能性を共有し、次の価値創造を考える機会とした。

開会セレモニーで、瀬田章弘会長が、「印刷というか紙が大変だという声が全国から聞こえる。本来、結ぶ力、伝えることが我々の原点である。ものづくりだけではなく、いろいろなものをつなぎ、物を伝えることが本来の仕事、力である。ものづくりに我々が集中し過ぎた。今日これから勉強する体験学習は世の中が待っている、望んでいるものである。印刷会社が体験価値を主軸として会社の中で新しい力としていき



瀬田章弘全印工連会長



（左）吾奏 伸氏 （右）江森克治氏

い」と開催あいさつを述べた。

オープニングセッションでは、「XIが拓く“体験価値の世界”印刷産業におけるイノベーションの可能性」をテーマに、江森克治全印工連常務理事・産業戦略デザイン室委員長と「体験のインテグラル」の著者である吾奏伸大阪成蹊大学芸術学部教授がトークを行った。

江森氏は、「AIは効率化や最適化は得意であるが『場をつくる』『感情を動かす』といった人が関わる価値の代わりはできない。印刷会社は『人と場をつなぐ経験』を持つ産業としての優位性があり、印刷を軸にしながら複合的な体験を提供することができる」と語った。

吾奏氏は「印刷業界は大量生産が良かった業態であったため、今でもマスプロに目が向きがちであるが、我々クリエイターは希少価値に目と向けることで単価が上がる。そうした視点を持つと基本的な体質改善が進むと思う。ゼロから始めなくてもいいので、小さな真似から入って、わくわくを感じながら乗り越えていくと変わっていくことができる」と語った。



つづいて、木村崇義全工連産業戦デザイン室委員が、SFプロトタイピングについての考え方を発表した。印刷は、「紙に刷る」だけではない産業になりつつあり、人と人をつなげ、社会のコミュニケーションを支えてきた歴史があり、これからの未来も印刷が社会に必要とされる存在であり続けるため「既存の枠の外へ出て考える場」が必要で、その突破口として選んだのがSFプロトタイピングである。今回のSFプロトタイピング取り組みを「IRIGUCHI」と定義した。印刷産業は「IRIGUCHI」という社会のインターフェースであり、顧客と企業の架け橋という重要な役割を担う産業と考え、メンバーが描いた「baku-vision、bakuri」「文化モノリス」「みらい商店街」「御機嫌よう365」「MindLink System」「e扇子」「こどもカルテ」「ドラえもん見守りサービス」の8つの未来を紹介した。

メインフォーラムでは、「XI実践から見てきたこれからの価値創造と印刷会社のあり方」をテーマに、今井孝治全印工連産業デザイン室副委員長がモデレータを担当し、「Dig It.」、「ミライニソナエテナイト」、「オープンファクトリー」の3つのプロトタイプ実験についてそれぞれの委員から紹介された。



「Dig It.」は、東京の日本橋人形町と渋谷で開催されたイベントに、感性で選ぶ買い物体験プロジェクト。「ミライニソナエテナイト」は、大阪で開催したBCP体験カフェ。「オープンファクトリー」は、愛知県半田市、大阪府東大阪市、香川県東かがわ市で産業戦略デザイン室委員が関わった地域の工場・事業所の見学・体験事業。

研究発表では、青木允全印工連産業戦略デザイン室副委員長から「未来は、予測するものじゃない、つくるものだ」、岩間奏子全印工連産業戦略デザイン室副委員長から「SR調達と公民連携でつくる地域のミライ」について、それぞれ発表が行われた。

クローズングセッションでは、「はやく変わる、ゆっくり進むXIが拓くイノベーションの多様な時間軸」をテーマに、松田朋春氏（スパイラルプランナー/アートディレクター）、伊藤雅樹氏（株式会社伊藤バイナダリー代表取締役）、高本隆彦氏（全印工連副会長/大興印刷株式会社代表取締役）、江森克治氏（全印工連常務理事・産業戦略デザイン室委員長）の4人により事例発表とトークショーが行われた。

全国青年印刷人協議会 第39回全国協議会開催される

全国青年印刷人協議会第39回全国協議会が、2月14日、東京・AKIBAHALLで開催されました。



全国から170名を超える青年印刷人が集まりました。会場は、互いの挑戦を前向きに受け止め、背中を押し合うような熱気に包まれました。

第1部は、変革への「志」を宣言するピッチイベント「COCOROZASHI PITCH」です。私、下國延彦（株式会社シモクニ）は、老舗シール業の経験を土台に、ジュニア向けスポーツウエアブランド「SEALOF」立ち上げへの一歩を発表しました。横山達也氏（S-PLUS）は、印刷現場の人手不足や技術継承の課題に向き合い、学び直しと実践で“憧れられる職人像”を育てる構想を提示しました。大木拓巳氏（株式会社泰清紙器製作所）は、受注型から一歩進み、協力会社との交流や生産予定の共有など、つながりで価値を広げる「ONEPACKネットワーク」を紹介されました。原田晋伍氏（有限会社ラップ）は、放置竹林の竹を

活用し、集成材加工からレーザー加工までを組み合わせ、地域の高校生やクラウドファンディングも巻き込む挑戦を披露しました。黒木昭博氏（株式会社ラフコネクト）は、通信業界での経験を経て印刷業に飛び込み、“笑顔を見える化して世界とつながる”という独自のビジョンを語りました。酒井大輔氏（あらゆる印刷共和印刷株式会社）は、年間6,000万個ともいわれる釣具流出の現実を見据え、3Dプリンタで根がかり防止ツール「モジャクロス」を改良し続ける取り組みで会場を沸かせました。

第2部の特別講演では、CCG HOLDINGSの北田浩之氏が「経営トランスフォーメーション」をテーマに登壇し、トップの当事者意識や“社長”と“経営者”の違いなど、次の行動につながる視点が共有されました。

「COCOROZASHI PITCH」表彰式では、SPACE-21賞（下國氏）、緑友会賞（横山氏）、全青協賞（大木氏）、全印工連賞（原田氏）、三谷産業賞（黒木氏）、先輩アトツギベンチャー賞（酒井氏）がそれぞれに贈られ、勝者と敗者ではない、6つの志に最もふさわしい6つの冠が贈られました。

そして、最後は四ツ橋新議長への交代式が行われ、全国青年印刷人協議会は次の2年間へと動き出しました。

北海道印刷工業組合青年部委員長
下國延彦 記



全印工連共済制度に加入しよう!!

全印工連が行っている共済事業は、多数の組合員にご加入いただくことにより、団体契約としてのスケールメリットが生まれ（生命共済、災害補償共済、せつび共済、医療・がん・介護共済）、一般の保険と比べて割安な掛金となっています。



共済事業の 主な意義

- ①割安な掛金で組合員企業の福利厚生や経営安定に役立つ保障制度を提供し、組合加入のメリットとなっています。
- ②経済事業として組合財政に寄与し、各制度の交付金等として、毎年約1.1億円を全国の印刷工業組合に還元しています。

生命共済制度(ライフピア)

死亡・高度障害の他、不慮の事故による障害や入院について、24時間保障する共済制度です。新規加入は70歳まで加入でき、75歳まで保障が継続されます。また、掛金の個人負担加入や配偶者の加入も可能です。

ポイント

- 割安な掛金で大きな保障が得られます。掛金は月額男性 357円・女性 296円から（15～35歳、死亡保険金100万円の場合 ※制度運営費を含みます。）。
- 加入時の医師の診査は不要(告知のみ)です。
- 保険金は災害で最高 2,000万円、不慮の事故による障害や入院についても24時間保障します。
- 企業が掛金を負担する場合、掛金は全額損金または必要経費となりますので、弔慰金・見舞金等従業員の福利厚生制度として役立ちます。
- 本制度はいわゆる“掛け捨て”の商品です。“掛け捨て”という一般的なには敬遠されがちですが、“掛け捨て”でない保険は、その分高い保険料を支払うことになります。予定利率の引き下げなど低金利が続く現在の情勢では、保障と貯蓄は区別して考えるべきであり、保障のみに限定した本制度はむしろ有利な制度と言えます。
- 本福利厚生制度にご加入の方が75歳6か月に達した場合は、所属の各組合から、長寿お祝い記念品が送られます。



災害補償共済(労働災害総合保険(法定外補償保険)、業務災害総合保険)

就業中の災害に対する補償金のお支払いによる負担から組合員企業を守るための共済です。従業員が業務遂行中、あるいは通勤途上で災害に遭遇し、身体に障害を被った場合に政府労災保険に上乗せして支払う「労災補償コース」と、政府労災保険とは関係なく独自請求できる「傷害補償コース*」の2コースがあり、ニーズに合わせて補償内容を選択できます。*政府労災の給付の決定が必要な場合もあります。

ポイント

- 加入手続きは簡単、年齢制限なし、無記名式
- ◆このご案内は災害補償共済の概要をご紹介したものです。保険の内容は災害補償共済のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりませんが、ご不明な点がある場合には、パンフレット等記載のお問い合わせ先までご連絡ください。



総合設備共済制度(せつび共済)

印刷設備をはじめとする機械設備の事故による損害を補償する共済制度です。オプションを選択すれば、風水災・地震災害(一部地域を除く)による損害も補償されます。

ポイント

- 不測かつ突発的な事故が発生した場合、修理費実額に対して保険金が支払われますので、経営安定に役立ちます。
- 保守契約の見直しをすることで、経費の節減がはかれます。
- 掛金は全額損金または必要経費となります。
- ◆このご案内は、印刷工場機械設備包括契約特約等付帯機械保険の概要をご紹介したものです。制度の内容はパンフレットをご覧ください。詳細は全日本印刷工業組合連合会が所有する保険約款によりませんが、ご不明点がありましたらパンフレット等記載のお問い合わせ先までご連絡ください。



医療・がん・介護共済(団体総合生活保険)

高齢化社会の到来などによる医療費の自己負担割合増大に対応するため、生命共済制度を補完する目的で発足しました。団体割引の適用による割安な掛金で大きな安心を提供するため“入院から退院まできめ細かく補償”をコンセプトに、病気・ケガにより入院した場合の入院保険金、所定の手術を受けた場合の手術保険金、放射線治療を受けた場合の保険金、がんと診断確定された時、急性心筋梗塞・脳卒中で入院した場合の一時金、先進医療を受けた場合の保険金などの基本補償のほか、加入プランによっては葬祭費用保険金や退院後通院保険金などの補償や加入者向けのサービスも用意しています。また、2021年7月より、介護補償もご選択いただけるようになりました。

ポイント

- 病気・ケガともに1日目の入院から補償します。
- 介護が必要になった時の初期費用への補償も選べます。
- 団体割引が適用されスケールメリットを活かした割安な掛金です。
- 加入時の医師の診査は不要(告知のみ)です。
(告知いただいた内容によっては、ご加入をお断りすることがあります。)
- 組合員企業の役員・従業員はもちろんのこと、その配偶者・子供・両親・兄弟および同居の親族まで加入できます。
- 公的な健康保険制度を補完するための選択肢の一つとして検討してください。
- ◆このご案内は、団体総合生活保険の概要をご紹介したものです。ご加入にあたっては必ず「重要事項説明書」をよくお読み下さい。ご不明な点がある場合には、パンフレット等記載のお問い合わせ先までご連絡ください。



■各共済制度のお問い合わせは、全印工連または北海道印刷工業組合へ。

※詳しくは、各制度のパンフレットおよび各制度加入促進チラシをご覧ください。

十勝支部令和8年新年交礼会開催される

十勝支部の令和8年新年交礼会が、1月22日午後6時から帯広市内のインザスイートで、来賓・組合員・賛助会員・関連業者34人が出席して開催された。



角 高紀氏

新年交礼会は、最初に角高紀支部長が「年始の話題として箱根駅伝が多くの方に注目された。青山学院大が3年連続総合優勝、12年のなかで9回の総合優勝という大変強い底力を感じた。私も生中継でみていたが、最初は青学のスタートが出遅れて第一区間が16位であったので今年は厳しいのかと正直思った。そこからどんどん追いついて往路の最後の5区で逆転して往路優勝して、翌日の復路はほぼ独走で総合優勝で、青学は強いなと感心した。産経新聞の元旦号で青学の原監督と高市総理大臣が対談をしている記事が掲載されていた。その中で成果を上げる秘訣について原監督が『チーム全員が理念を共有している』と話をしていた。その理念とは『社会に貢献できる人を育てる』を掲げており、ただ勝つことを目標にするのではなく、将来社会で活躍できる人材を育てる。そのための技術や体力だけでなく、コミュニケーション力、決断力、行動力、突破力の人として欠かせない力を大切にしていると話していた。一人ひとり、人の力を最大限に引き出しているから、輝かしい成果を成し遂げられたと感じた。今、印刷業界に目を向けると大変厳しい状況にある。青学のように

に理念を全社員と共有し、コミュニケーション力、決断力、行動力、突破力といった人として本来持っている力を磨き続けることが一方で大切なことである。十勝支部としても社会の変化をしっかりと捉えながら組合員の皆さんがそれぞれの強みを活かし、付加価値を生み出せるよう共に考えこれからも進んでいきたい』と新年のあいさつを述べた。



つづいて、来賓紹介が行われ、高橋克弘帯広商工会議所副会頭から祝辞が述べられ、郡山順二十勝毎日新聞社執行役員総務局長兼グループ統括の乾杯の音頭で開宴し、懇談が続く中、十勝検定クイズ大会が行われ、植平有治北印工組副理事長の一本締めで閉会した。

旭川支部と旭川印刷製本工業協同組合の令和8年新年交礼会が、1月29日午後5時から旭川市内のOMO7旭川で、来賓・組合員・賛助会員・関連業者76人が出席して開催された。



植平有治氏

新年交礼会は、最初に植平有治支部長が、「昨年の新年あいさつは生成AIを利用したが、今年は自力で考えたので、何かおかしいところがあるかもしれないが容赦ください。2025

年は地球規模の問題をはじめ、国内における物価高・

人口減少と高齢化に伴う人材不足と多くの課題に直面した1年であった。2026年もその傾向が続くと思われる。我々業界も市場規模の縮小という大きな影響を受けており、中でもデジタル技術の発展によるペーパーレス化が急速に進行しており、とりわけ生成AIの加速度的な進化は、業界に新たな局面を迎えようとしている。長年培われた印刷技術を核に、このよ

うな変化に対応し、負けないで、負けないで、負けないで、負けないで積極的に活用し、より高品質で効率的なサービスを提供できるよう努めていく」と新年のあいさつを述べた。

次に、来賓紹介が行われ、榊井正将旭川副市長、古川善裕旭川商工会議所専務理事、大和繁樹北印工組副理事長の3人から祝辞が述べられた。

つづいて、植平有治氏（全印工連創立70周年記念



会長特別表彰)、渡辺辰美氏（日印産連印刷振興賞）、山田遵氏（旭川商工会議所中小企業経営者表彰）を受賞された3人に対して、田村総司郎旭川印刷製本協組副理事長ら記念品が贈られ受賞をお祝いした。

野澤大 大丸株式会社道北支店長の乾杯の音頭で開宴し、懇談が続く中、計量ゲーム大会が行われ、細木俊明旭川印刷製本工組副理事長が結びのあいさつで閉会した。



左から山田氏、渡辺氏、植平氏

札幌支部令和8年例会開催される

札幌支部の令和8年例会が、2月12日午後6時から札幌市中央区の札幌東急REIホテルで、組合員・賛助会員・関連業者36人が出席して開催された。



岸昌洋氏

例 会は、最初に岸昌洋支部長が、「お忙しいなかお越しいただきありがとうございます。本日は旭川支部長の植平副理事長にご臨席を賜っている。後ほどフォーム工業会から小田島会長にもご臨席いただく予定になっている。選挙も終わって、雪祭りも終わって、いよいよ年度末で一番の予算執行の稼ぎ時、繁忙期になる。今月27日、下期北海道地区印刷協議会を開催する。北印工組だけでなく、全印工連、上部団体がどのような活動をしているのかを皆さんにいろいろと周知をさせていただく会議体になっている。締切が明日になっているので、是非参加いただければと思う。例年、恒例のビンゴがあって結構な賞品を皆さんの会費の中からと、支部長賞として私は会費の他に別途徴収されている。それが一番良い賞



品だと思うのでそれを狙ってください」と主催者を代表してあいさつを述べた。

植平有治北印工組副理事長・旭川支部長の乾杯の音頭で開宴し、懇談が続く中、ビンゴゲームが行われ、小田島秀明北海道フォーム印刷工業会会長が一丁締めを行い、閉会した。

印刷組合をひとつにつなぐ新プラットフォーム

全印工連は、組合運営の各種課題を解決するために印刷組合の情報プラットフォームとして **J-CONNECT** の開発に着手いたしました。

2024年に運用を開始した東印工組で開発した **CONNECT** は、組合員同士の情報共有や組合運営の省力化に多くの成果が出ています。この実績をベースとして、全国の組合員をひとつにつなぐ **J-CONNECT** の提供を開始します。

各社の企業情報登録開始は 2026 年 2 月、運用開始は 2026 年 3 月ごろを予定しています。

受信メッセージ



企業間や任意のグループでメッセージのやり取りができます。

イベント



イベントの案内確認、参加申し込み、決済までをワンストップで行えます。

企業検索



さまざまな条件を指定して、全国の組合員企業を検索することができます。

組合員案件相談



全国の組合員に向けて自社で解決できない案件を相談できます。

グループ



委員会、支部、趣味の会など、任意でグループを作成することができます。

ディスカッション



Q&A や特定の話題について、組合員とオープンに情報交換ができる機能です。

アンケート



事務局からのアンケートが届きます。短時間で手軽に回答する事ができます。

組合員専用出店サイト



自社のサービスを外部に発信できる全国プラットフォームです。

さらに販路拡大のための印刷デジタルサービス出店サイトも提供開始！

自社の強みを全国に発信し、新たな取引先とつながるための営業支援プラットフォームです。得意な印刷技術や加工、独自サービスを登録するだけで、広告代理店・デザイナー・制作会社などから直接問い合わせが届きます。見積りや発注のやり取りもスムーズに行え、時間とコストを削減。地域を超えた販路拡大や新規顧客の獲得、ブランド価値の向上を同時に実現できる、これからの印刷業のための新しいビジネス基盤です。



始動



j-CONNECT

印刷組合をひとつにつなぐ新プラットフォーム

北海道の難読地名

風不死

難読レベル

★★★★☆☆



早春の支笏湖、風不死岳（右）と樽前山（左奥）（千歳市支寒内）



表紙の解説

風不死（ふっぷし）

アイヌ語のフアウツヌプリ「トドマツ・群生する・山」の意。古くからトドマツの群生地であつたらしく、現在も麓から8合目までトドマツの群生地であるという。

参考資料：北海道「アイヌ語地名リスト」

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new_timeilist.html

難読レベル

- ★★★★☆☆…………… 道外の方でも読める
- ★★★★☆☆…………… 道民のほとんどが読める
- ★★★★☆☆…………… 道民の半分くらいが読める
- ★★★★☆☆…………… 道民でもほとんど読めない
- ★★★★☆☆…………… 地域住民以外は読めない

※難読レベルは北海道印刷工業組合独自の基準です。